

## 「外国人市民おさそいの手引き」 を作成しました

岡山市では令和6年11月に、災害時に備えて外国人市民と地域がつながるための研修を行いました。この場で出た意見を踏まえ、地域活動や行事に外国人市民をお誘いして、一緒に参加するためのコツをまとめたパンフレットを作成しました。

### 1 内容

同じ地域に暮らしていながら、外国人市民に声を掛けることをためらっている地域住民向けに、地域活動や行事に外国人市民を誘う際に気を付けること、コミュニケーションを取るために役立つツールを、事例を交えて紹介しています。

これらの内容を知ってもらい、地域のお祭りや防災訓練などに外国人市民も参加することをきっかけとして、外国人市民が地域の一員として活躍し、災害時など、困ったときに互いに助け合えるようになってほしいと考えています。

### 2 配布場所

- ・岡山市役所国際課
- ・西川アイプラザ4階 友好交流サロン(北区幸町)
- ・岡山市ホームページ

<https://www.city.okayama.jp/0000069821.html>

※各区役所、支所、地域センター、各公民館でも順次配布予定です。



### 3 備考

- ・岡山市には、約100の国や地域から1万6千人を超える外国人(令和7年1月末時点)が生活しています。
- ・「外国人市民おさそいの手引き」と併せて、「やさしい日本語ガイド」、「災害対応スタンプラリー報告書」も作成しました。詳細は別紙にてご確認ください。

#### 【問い合わせ先】

岡山市 国際課 岡崎・金子 直通086-803-1112 内線3250・3252

# コミュニケーションのための便利なツール

## やさしい日本語

外国人でも、日本語が話せる人もたくさんいます。日本語を勉強している人も多く、やさしい日本語で時間をかけて話すことで、伝わることも多くあります。やさしい日本語は、「相手にわかりやすい日本語」です。

やさしい日本語で話したり、やさしい日本語で書くことで、外国人の方とのコミュニケーションがぐっとスムーズになるはずです。詳しくは、やさしい日本語ガイドをご覧ください。



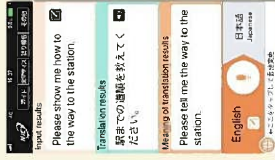
## 翻訳アプリ VoiceTra

やさしい日本語でうまく伝わらない、というときは、多言語翻訳アプリVoiceTraが便利です。

31言語に対応しています。翻訳アプリを使うときは、やさしい日本語を使うと、上手く翻訳されやすくなります。

iOSおよびAndroid版が提供されています。

詳しくは、同封のVoiceTraの説明チラシをご覧ください。



## 通訳・翻訳ボランティア

岡山市国際交流協議会(事務局:岡山市国際課)では、非営利な機関・団体、個人からの依頼があれば、通訳・翻訳ボランティアに登録している人に呼びかけ、通訳を派遣したり、翻訳を行ったりしています。

地域での行事の案内を翻訳してもらいたいときや、ご相談ください。

ボランティアの募集に時間がかかりますので、1か月前にご連絡をいただくことをおすすめします。(公的機関が発行している文書の翻訳、公的機関に提出するための文書の翻訳及び契約に関する文書の翻訳は行いません。)

## 災害時多言語表示シート

災害時に避難所や外国人が集まる施設、公共交通機関、SNSでの周知などに使えるフレーズが、13言語+やさしい日本語などでダウンロード・印刷できるツールです。

「トイレ」や「立入禁止」など、普段から使えるフレーズもたくさんありますので、イベントをするときから活用して、いざというときにすぐに使えるように練習しておきましょう。

詳しくは、自治体国際化協会のHPをご覧ください。

<https://dis.clair.or.jp/open-data/bsc-common/menu/>



地域のイベントに、外国人市民もおさそいしてみよう！

# 外国人市民 おさそい の手引き

おまつり

運動会

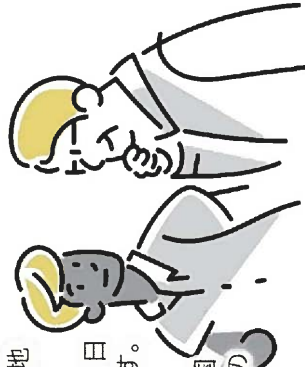
防災訓練

町内清掃

やさしい  
日本語

おさそいの  
ポイント

便利な  
ツール



地域と一緒に住んでいる外国人市民の方も、地域の行事におさそいしてみよう！

災害時など、困ったときに助け合うためには、日ごろからつながりを作っておくことが大切です。

でも、うまくコミュニケーションが取れるか

ちょっと心配...というみなさんのために、外国人市民をおさそいして、一緒に参加するためのコツをお伝えします。

お問い合わせはこちら

岡山市役所国際課 086-803-1112

# 外国人市民を

## おさそいしてみよう



共に同じ地域に暮らしている外国人市民。道ですれ違ったり、お店で見かけたりはするけれど、話したことはないという人もいますのでは？

日本語が通じるかな、災害が起こったらちゃんと避難できるかな、そんな心配が少しでもあれば、まずは地域の行事におさそいしてみましよう！

外国人市民と一緒に活動すると・・・

- 👍 顔が見える関係性が作れる
- 👍 地域の情報やルールを共有できる
- 👍 お互いに困ったときに話ができる



万富公民館で月に1回行っているマルシェ万富には、新鮮な野菜や果物を求めて地元に住んでいる外国人が訪れます。最初は買い物だけに来ていた外国人が、出店の準備や荷物を運んだりして手伝ってくれるようになりました。

この交流を生かして、公民館で「まんとみ国際交流すすめ隊」を結成し、月に1回日本語教室を開催し、交流の場を広げていきます。

さらに、外国人の方に、避難訓練などにも参加してもらって、災害が発生した時、外国人の方も素早い避難ができるよう、地域を上げて取り組んでいます。

# おさそいするときに 気をつけることは？

## 1 まずは日本語で話しかけてみる

日本語が話せると言っている外国人市民は約8割！やさしい日本語が通じなかつたら、翻訳アプリなど他の方法を考えましよう。

## 2 どんなイベントなのか、直接会って、具体的に説明する

メールの一斉送付やSNSへの投稿では、なかなか伝わりません。直接話して、イベントの内容や思いを伝えようと、興味を持ってもらえる可能性が高まります。

## 3 やさしい日本語や多言語の資料を用意する

文字がたくさんの難しい日本語の資料をもらっても、なかなか読めません。自分の言語で書いてあると、私も参加していいんだ！と興味を持ってもらえるきっかけもなります。

## 4 一緒に参加し、一緒に運営する

一緒に行事に参加することで、同じ地域の一員としての一体感が生まれます。さらに、運営に関わってもらうことができると、力を貸してもらえたり、参加者を連れてきてもらえたり、新たなアイデアが生まれたりと、相乗効果が期待できます。

外国人市民と地域がつながる災害対応スキルアップ研修  
「災害対応スタンプラリー」(国際課主催)に参加した、日本人参加者の声



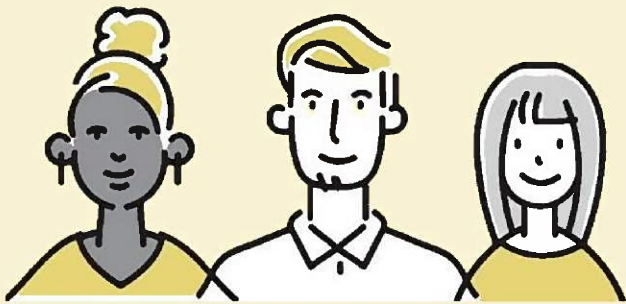
誘われて災害対応スタンプラリーに参加してみましたが、バングラデシュのお兄さんたちが優しくしてくれたので、楽しかったです。

私は普段早口なので、外国人に対してゆっくり話すことや、ルビの必要性などについて、改めて認識しました。確かに、もし私が海外に行ったら、英語は早口ではなくゆっくり話してほしいなと思いました。

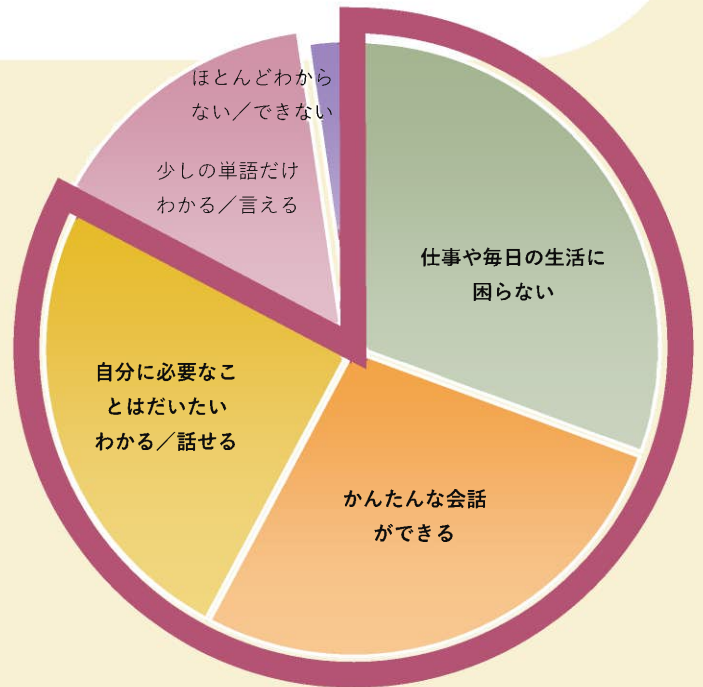
日本人同士でも同じですが、まずは友達になつたり知り合いになつたりすることが大切だと思います。地域の行事も顔を つなぐ機会にできたらいいと思います。

# やさしい日本語 ガイド

82.7%の岡山市在住外国人が  
日本語で「自分に必要なことはだいたいわかる／話せる」と答えています。



地域の外国人に、まずは  
**やさしい日本語**で  
話しかけてみましょう！



日本語がどれくらいできますか？（話す聞く）  
令和5年連携中枢都市圏外国人コミュニケーション支援事業アンケートより

たとえば・・・

土足厳禁

通話をご遠慮ください

直ちに避難してください

くつ 靴を めいでください

ここで でんわ 電話をしてはいけません

すぐに に 逃げてください

やさしい日本語のコツは裏面に！

# やさしい日本語7つのコツ

はじめの心得：内容を整理し、相手に配慮する

聴き方の心得：相手の話をしっかり聴く

話の進め方：反応を見る、臨機応変に対応する

話し言葉のやさしい日本語の活用促進に関する会議  
「在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン 話し言葉のポイント」2022年10月より抜粋

## 1 難しい言葉を使わず、簡単な単語を使う

「清掃活動」→「そうじ」「炊き出し」→「食べもの」  
※災害用語などはそのまま使い、説明を加える。「避難所(逃げるばしょ)」

## 2 一文を短くして、簡単な構造にする

「〇〇する前には、△△をせず、□□してください。」  
→「□□をしてください。その後、〇〇してください。」

## 3 あいまいな表現は使わない

ご遠慮ください→できません

## 4 文末はなるべく「です」「ます」「してください」に

「～していただけますか?」→「～してください」  
カタカナ・外来語はなるべく使わない

## 5 擬態語や擬音語は使わない

「めちゃめちゃ」→「とても」「ザーザー」→「たくさん」

## 6 漢字にはルビ(ふりがな)を振る

ルビ振(ふ)り機能(きのう)が無(な)ければ、カッコ書(が)きて

## 7 和暦ではなく西暦を使う

「令和7年」→「2025年」

これであなたも  
やさしい日本語マスター!  
次は、実際に使って  
交流してみましょう!



# 外国人と地域がつながる災害対応スキルアップ事業 災害対応スタンプラリー 報告書

岡山市国際課

外国人市民は、日本の災害や地域の防災活動についてあまり知らなかったり、地域住民とコミュニケーションを取る機会が少なかったりすることから、災害が起きたときに逃げ遅れたり、地域での共助が難しかったりすることが想定されます。一方で、地域住民も、外国人市民とのコミュニケーションに不安を持っていたり、災害時に外国人市民が支援する側になれるという認識があまりなかったりという現状があります。

そこで、外国人市民が日本の災害特性や救急体制の仕組みを学び、災害時に適切な対応がとれるよう「自助」の力を高めるとともに、地域の中での自主防災の取組を学ぶ場を設けることで、地域住民と外国人市民の顔の見える関係づくりを進めるきっかけづくりとするとともに、「共助」の意識を啓発するため、この事業を実施しました。

## 概要

### 日時

2024年11月16日(土)  
13:00~16:00

### 場所

岡山市総合文化体育館  
サブアリーナ

### ファシリテーター

地域国際化推進アドバイザー  
明木一悦氏

## 参加者

外国人	22人	日本語学校学生、日本語教室参加者、市内企業の従業員、岡山市外国人市民会議委員 など 10か国
日本人	36人	公民館地域担当職員、外国人を雇用する企業、スポーツ推進委員、市職員、高校生、親子、日本語教育関係者 など
見学者	4人	連合町内会長、消防職員、市職員、日本語学校職員

## 企画時に気を付けたこと

### 楽しめる スタンプラリー形式

外国人参加者と日本人参加者の交流を促進するため、スタンプラリー形式とすることでゲーム性を持たせた。

スタンプラリー形式とすることで、気軽に親子でも参加できるようにした

### 様々な関係団体の 参加

災害に関わる様々な団体がスタンプラリーのブースを出展することで、多様なブースを用意した。

同時に、出展者も災害時の外国人支援について考えるきっかけとなったり、外国人市民とコミュニケーションを取る練習となる。

### 地域の キーパーソンの参加

実際に災害が発生した時や、地域で行っている防災訓練、イベント実施時に外国人市民にも目を向けてもらえるよう、地域のキーパーソンとなるような、地域での役を務めている人や、公民館の地域担当職員、消防団や町内会の関係者等にも声をかけ、参加を促した。

# 広報活動



日本人向け、外国人向けを1枚のチラシに盛り込んだが、対象者がばやけてしまって、参加者集めに苦労した。裏表に分けるなどし、外国人向けには楽しさや災害について学ぶ必要性について、日本人向けには、防災についての知識を外国人市民にも共有してもらいたい(防災に関わっているが外国人との関わりのない人向け)や、災害発生時に外国人支援や外国人の方に助けてもらうことがあるかもしれない、ということを強調したチラシとした方がよかった。

国籍よりも話せる言語の方が重要だったので、確認したのは話せる言語。ただし、後の報告を考えると、国籍もあった方がよかったとも感じた。

## タイムスケジュール

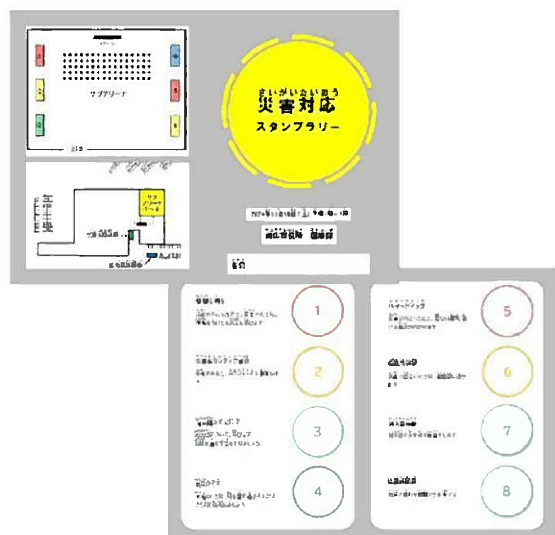
- 13:00~13:10 オリエンテーション
- 13:10~13:40 外国人向け講義(岡山の災害について)  
地域住民向け講義(やさしい日本語と翻訳アプリの使い方について)
- 13:40~14:00 自己紹介・アイスブレイク
- 14:00~15:30 スタンプラリー
- 15:30~15:45 119番通報体験
- 15:45~16:00 振り返り



## 会場レイアウト



## スタンプラリーカード



# 当日の様子

## 受付

- ・「受付」やそのほか案内を、クリアの災害時多言語支援シートやChatGPTを使って多言語化し用意
- ・呼んでほしい名前をひらがなでカードに記入し、名札をつくる



## オリエンテーション

ファシリテーター：  
地域国際化推進アドバイザー・MDST 代表 明木一悦氏

- ・ 写真・映像撮影がOKか確認 (NGの人には赤い紐の名札を配布)
- ・ 今日のスケジュール、会場図を説明



## 外国人市民向け講義

講師：岡山市危機管理室  
岡山市で起こる災害を知ろう  
能登半島地震の写真や西日本豪雨の写真などを交えて  
ハザードマップを知ろう  
災害に備えよう(準備しよう)



## 地域住民向け講義

講師：環太平洋大学 講師 大平 真紀子氏  
やさしい日本語について  
翻訳アプリ「Voicetra」の使い方



## 水害着せ替えゲーム

担当：おかやまバトン  
水害時にはどんな服装で逃げたらいいのかが、ゲームを通して学ぶ



## 岡山市社会福祉協議会

担当：岡山市社会福祉協議会  
社会福祉協議会やボランティアセンターについての説明  
災害時にボランティアとして参加してほしいという旨の呼びかけ  
能登半島地震の写真の展示



## 消防団ってなに？

担当：学生消防団員  
消防団についての説明  
制服を着て記念撮影



## 情報を得る

担当：国際課  
岡山市災害時多言語支援センター  
岡山市防災情報メール(12か国対応)  
NHK World (NHK国際放送局から資料提供)  
について説明し、岡山市災害時多言語支援センターの情報を投稿するFacebookや岡山市防災情報メールへの登録を呼び掛ける



## 多言語Webハザードマップ

担当：危機管理室  
英語、中国語(簡体字・繁体字)、韓国語版のある多言語Webハザードマップを各自のスマホで使い、自宅の危険度や近くの避難所を確認



## 避難所体験

担当：危機管理室  
ベッドとトイレの組み立てを体験



## 水消火器体験

担当：南消防署・浦安消防団  
水消火器で的を倒す練習  
火が大きくなったらまず逃げるように、などの説明



## 地震体験車

担当：南消防署・浦安消防団  
地震体験車で震度6強を体験





## 参加者、協力者の声

### 日本人参加者

メンバーが日本語が堪能だったので、アプリを使うシーンがなかったのは少し残念だった。

各ブースの人が、なんちゃって英語をしゃべるのが、日本語が堪能な英語ネイティブにはおかしく感じたようだ。

ゆっくり話すことや、ルビの必要性などが参考になった。自分も外国に行ったら英語はゆっくり話してほしい。

まずは友達になったり知り合いになったりすることが大切だと思った。

### 外国人参加者

日本に長く住んでいるが、避難所のことには知らなかったのも、とても参考になった。

やさしい日本語で教えてくれたので、よく理解できた。

災害時には日本人を助けたい。

### 運営協力者

既存のパンフでは、外国人には難しく伝えて伝わりにくいということがわかった。

今後国際課の災害時多言語支援センターとも協力し、情報発信してもらったり、災害時多言語支援センターが得た外国人のニーズを吸い上げるなど、協力していきたい。

## 成果と課題

### 成果

参加者の満足度は高く、外国人、日本人ともに楽しく、学びのある時間となった。

外国人と日本人がグループで活動できる内容とすることで、活発なコミュニケーションを促進することができた。

外国人同士の横のつながりをつくるきっかけにもなった。

ブース運営に協力いただいた方にとっても、外国人支援について考えるきっかけとなった。

テレビニュースで報道されたことで、参加者以外の人にも災害時の外国人次対応について知ってもらうきっかけとなった。

### 課題

参加者が予定よりも少なく、周知方法や開催方法の改善が必要。

メールやSNSでの周知はなかなか届かない。会って（電話で）説明することが重要。

日本人参加者を集める際、もっと地域組織と連携できればよかった。

外国人が出展するブースがなかった。

地域主催の防災訓練やイベントに外国人市民が参加しやすくする工夫が必要。

## 参考としたサイト、情報等

多文化共生のまちづくり促進事業(クリア)

[https://www.clair.or.jp/j/multiculture/kokusai/page\\_8.html](https://www.clair.or.jp/j/multiculture/kokusai/page_8.html)

災害時多言語表示シート(クリア)

<https://dis.clair.or.jp/>

NHK World JAPAN

<https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/>

多言語音声翻訳アプリVoicetra

<https://voicetra.nict.go.jp/>